



Matsubara-syo Chronicle

VOL. 4, R8.1.30



50TH ANNIVERSARY



松原小に引き継がれるよさ ～縄跳びの思い出から～

松原小学校に「伝統として引き継がれているよさ」は色々ありますが、ある教員が卒業生から聞いた話をもとに、今の季節にぴったりの縄跳びの話題を紹介します。

この文章を書くにあたり、私は何人かの大人の卒業生に話を聞きました。

「松原小学校の行事の思い出で印象に残っているものありますか。」

「なんだろうな。行事じゃないけど、授業中に何をしたかは忘れたけど怒られて・・・。（笑顔で楽しそうな内容が続く・・・）もちろん自分たちが悪かったんだけどね。」

「そういう話は、同窓会や飲みの席で盛り上がりますよね。」

この方は、今も当時の仲間と集まるそうです。今教えている子どもたちも、「あの時はこうだったよね。」と言いながら（きっと、私は大人になった子ども達にいろいろ笑われてしまうのでしょう。）小学校の時の思い出を胸に、ずっと続く仲良しな仲間であってほしいです。

さて、別の方の話では、松原小学校の行事に、「なわとび大会」というものがあったそうです。二重跳びやあや二重跳び、後ろあや二重跳び等の種目ごとに自分でエントリーして、最後の人が引かかるまで続けるそうで、何番かまでは賞状が出るとか・・・。それを聞いて、私はなるほどと思いました。松原小学校の子ども達は、とてもなわとびが好きで上手だからです。そのなわとび好き具合と上手さは今までいたどの学校の子ども達よりも上です。その理由を、体育館を開放しているからだと思っていましたが、この話を聞くとそれだけではなかったことがよくわかりました。上手になわとびをしている友達や上級生を見ている子が、練習を続けていたのでしょう。今は「なわとび大会」はありませんが、校庭や体育館でのなわとびは続き、跳びやすい環境も整っています。ところで、この文章を書いている私は、なわとびがとても苦手です。環境と言え、私のいた学校（埼玉県北部）では、なわとびは必ずからっ風の吹く校庭でやるものでした。なわとびをしていると、風で飛んできた小石と、風で自由の利かない縄が素足に当たり、石で押さえているなわとびカードはすぐに飛んでいってしまいます。もう、何が何だかわからない状況でした。だから私はなわとびが苦手なのです。（その後良い場所で練習してもうまくできないので、完全に言い訳です。）

そして、なわとび以外の松原小学校のよさと言え、なんと言っても、子どもが子どもらしく、とても人懐っこく親しみやすいことです。また、子ども達だけでなく、学校に協力してくださる保護者の皆様や地域の方も、とても気さくで親しみやすい方が多いと感じています。これもまた、人間関係の希薄さが問題となっている現代ではとても貴重なことで、松原小学校に引き継がれている素敵なものだと思います。他にも、まだまだ松原小学校のよさがあるはずです。時代が変わるにつれて多少教育活動は変わっていきませんが、松原小学校に引き継がれているよさを、50周年のような節目や日常の中で時々思い出しながら、これからもみんな大切にしていけたらと思います。